

## 11月 理事会・勉強会のご案内 (第44回)

2010年10月21日  
沖縄事業再生研究会  
代表理事 与世田 兼稔

場 所：沖縄振興開発金融公庫 5階会議室

日 時：2010年11月11日(木) 18:00~20:00

(理事会) 18:00~18:10

1. 会員入会申込者の承認について
2. 当月及び今後の活動等について

(勉強会) 18:10~20:00

### 知っておきたい感染症と企業、家庭でできる感染制御

講 師：平潟 洋一 先生 (ひらかた よういち)

東北大学大学院医学系研究科 臨床微生物解析治療学講座 教授

#### 【講演の概要】

感染症とは、言わば、「はやり病」です。心筋梗塞などと異なり、家族や職場の同僚にうつしたり、うつされたりする病気の総称です。ペットを含む動物や”カ”などからうつる病気もあります。インフルエンザも、元をたどれば全て家禽類や野鳥からの感染症です。また、感染症の状況は、国や地域により異なっており、島嶼地域である沖縄における感染症を、内地と同様に語ることはできません。

現在は、感染症の多くをワクチン類で予防でき、万が一、感染しても、抗菌薬等の発達の恩恵を受け、大抵の場合、完治に至ります。結果、私たちは、日常生活の多くを、感染症を認識せず行動しています。しかしながら一方で、抗マラリア薬が効きにくいマラリアの存在と地球温暖化によりマラリアが沖縄へ再上陸する危険性、狂犬病のように、ワクチンはあるものの十分に量が確保できていない矛盾（沖縄県は、日本で最も狂犬病予防注射の接種率が低い地域）、感染症に罹っていても症状はなく、周囲に感染を広げる可能性のある人（不顕性患者）が多くいる実態、新型インフルエンザや結核などの死亡例などの様に「分子のみ独り歩き」し、分母となる相当数の潜伏患者数を把握出来ていない現状、製薬企業が感染症の治療薬やワクチンの開発や輸入に乗り出していく厚労省の体制等を考えると、今後、沖縄で私たちが未体験の感染症に遭遇する可能性は低くはないでしょう。私たちは、これらの感染症に対して職場や自宅で防御策を取ることが出来るのでしょうか。どうすれば事前に最大限のリスク回避ができるのでしょうか。また、昨年、新型インフルエンザの流行時のように、マスコミの報道に煽動され、間違った行動を取りはしないのか。「昨年、講義を受けた（かも知れない）BCPは全部出たらめです。ニセ講師のために会員の皆様は高いお金を払うことを余儀なくされたようです。（平潟先生談）」

今回は、**沖縄をこよなく愛し、年に2回は沖縄に来る**長崎県出身の平潟先生に、県内で流行している感染症、また、今後流行する危険性のある感染症の中から、講演時に流行中の感染症を中心に、感染症と自分でできる防御のためのテクニック全般について分かりやすく解説していただき、また、企業等における感染対策の意義についてご紹介していただきます。

**エレキ三線片手に島ゾウリで登場するかも。**（牛島）

【講師ご紹介】別紙

(紹介者：文献検索事務所インフォレキオ 牛島 慶一 氏)

※ご出欠については、諸準備の都合上 11月5日(金)までにメールにて下記宛にご連絡をお願いいたします。

【講師ご紹介】 昭和37年1月13日生 長崎県島原市出身

専門 感染症、呼吸器病学、臨床微生物学、感染制御学、感染免疫  
職歴など

昭和61年3月(1986年) 山口大学医学部卒業

昭和61年6月(1986年) 長崎大学医学部附属病院第二内科 研修医

昭和62年4月(1987年) 長崎大学大学院医学研究科(内科系臨床検査医学)入学

平成3年3月(1991年) 同 修了(医博甲第625号)

平成3年4月(1991年) 東邦大学医学部微生物学教室 助手

平成5年6月(1993年) 自治医科大学呼吸器内科 シニアレジデント

平成6年4月(1994年) 自治医科大学呼吸器内科 助手

平成7年6月(1995年) 長崎大学医学部附属病院検査部 講師

平成10年7月(1998年) プリティッシュコロンビア大学感染免疫研究所へ  
リサーチアソシエイトとして留学

平成12年7月(2000年) 長崎大学医学部附属病院検査部 講師(復職)

平成16年4月(2004年) Harvard Medical School, Infectious Diseases of Adults 2004 修了

平成18年2月(2006年) 長崎大学医学部・歯学部附属病院

感染制御・教育センター副センター長

平成18年4月(2006年) 長崎大学医学部・歯学部附属病院第二内科 講師、  
外来医長・保険副主任

平成19年6月(2007年) 東北大学大学院内科病態学講座 感染制御・検査診断学分野 講師

平成20年1月(2008年) 東北大学病院検査部 副部長(兼任)

平成20年3月(2008年) 東北大学大学院内科病態学講座 感染制御・検査診断学分野 准教授

平成20年8月(2008年) 東北大学病院インフルエンザ対応ワーキンググループ長

平成21年2月(2009年) 東北大学大学院医学系研究科 臨床微生物解析治療学講座 准教授

平成21年6月(2009年) 東北大学大学院医学系研究科 臨床微生物解析治療学講座 教授  
(現在に至る)

受賞など

平成4年7月 東京消防庁 救急救命士養成 感謝状

平成5年度 日本感染症学会北里(きたさと)柴三郎記念学術奨励賞

1999 Canadian Cystic Fibrosis Foundation Visiting Scientist Award

1999 British Columbia Lung Association Research Development Program Award

平成13年度 日本臨床検査医学会学術奨励賞

平成14年度 上田 泰(うへだ・やすし)記念感染症・化学療法研究奨励賞

平成14年 長崎大学医学部角尾(つのお)学術賞

平成18年 日本抗生物質学術協議会奨励賞

資格など

日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本感染症学会専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・  
指導医、日本臨床検査医学会臨床検査専門医・臨床検査管理医、日本化学療法学会抗菌薬臨床試験  
指導者・抗菌薬化学療法認定医/指導者、ICD 制度協議会認定インфекションコントロールドクター、  
日本医師会認定産業医、米国心臓協会(AHA)ACLSプロバイダー、PADI RESCUE DIVER/MASTER  
SCUBER DIVER

評議員など

Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) 抗菌薬感受性試験委員会アドバイザー、  
日本感染症学会(評議員、施設内相談窓口回答)、日本化学療法学会(幹事、微量液体希釈法検討委  
員会委員、レジオネラ治療薬評価委員会委員、編集委員会委員、電子情報配信誌編集委員会委員)、  
JAID/JSC 感染症治療ガイド作成委員(肺炎、骨髄炎)、日本臨床微生物学会(評議員、国際委員会  
委員)、日本臨床検査医学会評議員、日本マイコプラズマ学会理事、日本環境感染症学会評議員

その他 所属学会

American College of Physicians

American Society for Microbiology

American Thoracic Society

The International Society of Travel Medicine